

流しびなに

願いを乗せて

木野両国橋下流ほか

春の訪れが感じられる暖かな日差しのもと、大竹の伝統行事「ひな流し」が小瀬川流域の市内4カ所で行われた。木野会場には多くの子ども達が訪れ、一つひとつ手づくりの流しびなをそっと川に流し、手を合わせて願いを込めた。

広島市から参加した小学2年生の高宮瀬奈ちゃんは「毎年参加していて、流しびなを作るのも流すのも楽しいです。今年は字がきれいになりますようにと願いを込めて流しました」と笑顔で話してくれた。

3
4

教わりながら、
流しびなを作成。



ひなの顔がうまく書けたよ。

綿菓子やうどんの販売などもあり、
多くの人でにぎわった。



多くの人が、シャッターチャンス
を待っていた。



70年の節目に

大竹中学校

大竹中学校創立70周年を記念し、「美術部」と「ものづくり部」が大竹市暴力団追放協議会、ハローの仲間などと協力して作成したこいのぼりなどのストーンアートの披露式が行われた。

美術部部長の舩本晴香さん(2年)は「中学校の創立70周年を迎え、大竹の良いところなどを題材にして作成しました。小さなこいのぼりや人の顔を描くのに苦労しました。がんばって描いたので、みんなの憩いの場になればと思います」と話してくれた。

ストーンアートを前に記念撮影。

3
8

(上)川面にそっと、流しびなを浮かべる。
(下)子どもの健やかな成長を願って。



美術部の3人が除幕を行った。

